

みんなで育てる「たいしの子」vol.4

幼小中一貫教育だより

非認知能力を伸ばす「町立幼稚園」の取り組み

「無制限遊び」を通して心も身体も 開放的に・・・町立幼稚園の取り組み

町立幼稚園の保育活動の特長は、子どもたちが、選ぶ・考える・想像する・活動する・協働するということが保育の中心にあることです。

様々な場面で子どもたちが自分の好きなことを選び、そこから考え、想像し、友達と協力することへと遊びが展開されていきます。

教員は子どもたちの自主性を大切にし、のびのびと活動ができるように関わります。

今回の「無制限遊び」では、その名前のとおり、時間に制限をもうけず子どもたちが寒天や米粉絵具を使用し、やってみたいことに挑戦しました。

最初は、寒天をツンツンつついたり、指でつぶしたりと手指で感触を確かめていました。

混ぜることによって色が変わっていくことを発見し、いろいろな容器に入れ、容器によっては見え方が違うということにも気付きました。



▲町立幼稚園の寒天ゼリーで遊ぶ様子

できたものを見ながら、感じながら、考えながら友達との会話をし楽しむ中でたくさんの言葉が出てきました。

また、足に米粉絵具をぬったり、踏んだりして感触を楽しみ、心も身体も解放感をたっぷり味わい、楽しい時間となりました。

子どもたちの遊びが想像豊かに展開されるよう、保育活動の環境構成及び教員の言葉がけの大切さを感じています。

●無制限遊びとは

子どもたちは楽しく没頭できる活動を通して、日常の「それやっちゃダメ！」から解放されて自由に遊びます。

そこで、これからの時代をたくましく生き抜くための”感性”を磨き”五感”を豊かに刺激します。その遊びが無制限遊びです。



▲町立幼稚園の寒天ゼリーで遊ぶ様子

自分たちで考え、行動し、 友達と協力しながら遊びを進める子どもたち !!

園児は登園後、身支度を済ませると、どの学年も園庭に出てきて、自分の好きな遊びを見つけて遊び始めます。好きな遊びに向かう子どもたちの目はキラキラ輝き、砂場ではコックさんになりきったり、一輪車では転んでもなんども立ち上がり練習したり、遊びに没頭しています。



▲町立幼稚園のドッジボールのコートづくりの様子



▲町立幼稚園のドッジボールの様子

幼稚園では、子どもたちの意思を尊重し、「自分で決める」ということを大切にしています。

個人の遊びから数名そして、3学期にもなると集団での遊びへと広がり、「ドッジボールしよう」と声が上がると、次第にたくさん子どもたちが集まり、コートづくりから始めます。

数本のロープを組み合わせ、声を掛け合いながら自然に役割が分担されていきます。

「ロープを押さえる子」「ロープを引っ張り、組み合わせる子」「全体を見渡しながらか、コートになるように誘導する子」など、この活動の中だけでも、友達の話の聞いたり、伝えたり、時には自分の想いをとり下げて、折り合いを付けるなど、様々な学びがあります。

はじめの頃はとても時間がかかっていましたが、「何事も経験」、子どもたちを信じて見守る教員の姿勢が子どもたちの成長を促すことをあらためて感じさせられます。

年長児のリードする姿を見ながら、年中児もしっかり学んでおり、異年齢の子どもたちが一緒に遊ぶことの大切さを感じています。

教えて!とくどめ先生! 「非認知能力が注目される理由」

第1号で述べた通り、この非認知能力という言葉は、経済学領域から生まれた言葉です。

2000年にノーベル経済学賞を受賞したジェームス・J. ヘックマンの研究で、非認知能力を重視した幼児教育に着目して、成人になるまで追跡調査を続けた結果、基礎学力に加えて、経済的にも豊かになることを証明しました。

その上で、学力偏重主義であったアメリカの教育政策に対して提言したこと、端を発します。

そして、この検証と提言がアメリカのみならず先進国を中心に広がりを見せたことによって、注目を集めるようになった背景があります。非認知能力こそが大切で、認知能力（学力）が必要ないと言っているわけではないことは押さえて頂きたいポイントです。

このほかにも、非認知能力が注目されている理由があります。

数年前から、我々がこの先、生きていく未来は VUCA 時代と呼ばれ、先行きが不透明で、不確実性が高い時代だと言われています。

この VUCA というのは、Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）の頭文字をとって、名付けられたものです。

今から5年前にこの言葉を言われてもぼんやりとしかイメージできなかったかもしれませんが、3年前から続く新型コロナウイルスの世界的な流行や昨年2月に始まったロシアのウクライナ侵攻など、私たちが予想することが難しい現実が立ちました。

まさに、こういった時代を生き抜いていく今の子どもたちに求められるものは、一問一答に答えられる力や、テストで点数を取るだけの力ではなくて、いかなる状況においても自分で主体的に判断し、他者と協力し、立ち向かっていく力です。

それこそがまさに非認知能力だと言えるのです。

今回は、A I（人工知能）の発達する社会で必要となるものについて説明していきたいと思います。

◆問合せ 教育総務課 ☎98-5533